

令和4年度 学校安全総合支援事業（学校安全体制の構築）の最終報告

学校名 （ 佐伯市立佐伯南中学校 ）

1 学校の情報

（1） 学校規模

佐伯南中学校：学級数 8 生徒数 206 人 職員数 23 人

（2） 分掌の位置づけ

防災教育モデル実践委員 16 名

防災教育コーディネーター 佐伯南中学校：津村 俊輝

（3） 地域環境

佐伯市は、大分県南東部に位置し、北は津久見市、臼杵市、豊後大野市、南は宮崎県に接している。平成17年3月3日に、佐伯市・上浦町・弥生町・本匠村・宇目町・直川村・鶴見町・米水津村・蒲江町が合併し、佐伯市として市政を施行したことにより、市域総面積が903.11km²（県土面積の14.25%）となり、九州一広い市域面積をもつ市となった。東部の佐伯湾、南東部の日向灘沿いの海岸線の延長は約269kmを有し、日豊海岸国定公園及び豊後水道県立自然公園に指定されるリアス海岸が広がる。反面、津波の際は、内陸になるほど、津波高が高くなる可能性も高い。一方、西部は標高1,500m前後の山々が分布し、山岳や溪谷が連なる地形となっている。山が多いため、土砂災害リスクがある。年間平均気温は16度前後と温暖な気候で、冬でも積雪はほとんどない。九州有数の清流である番匠川を始め、多くの支流を有する二級河川も多く、豊かな水に恵まれた地域である。水が豊かな反面、洪水リスクが高いのも事実である。市の中心地はその番匠川の河口に広がる沖積平野にある。

佐伯市国土強靱化地域計画（令和2年3月）では、対象とする自然災害を、大地震・津波と風水害としている。南海トラフ沿いでは、約100～150年の間隔で大地震が発生しており、昭和南海地震（1946年）から約70年が経過している。国の地震調査研究推進本部によると、今後30年以内にM8～9クラスの地震が発生する確率は70～80%となっており、地震発生危険性は年々高まってきている。近年、短時間豪雨の発生回数が全国的に増加傾向にあるなど、雨の降り方は局地化、集中化している。さらに今後、地球温暖化等に伴う気候変動により極端な降水がより強く、より頻繁となる可能性が非常に高いと予測され、風水害、土砂災害が頻発・激甚化することが懸念される。

これらの地形や地質、気候の特質から、地震・津波や洪水等の災害から住民の安全を確保するためには、平時から地域・関係諸機関との連携を図ることによって、有事の協働に向けていくことが求められる。

2 取組のポイント

- ① 防災教育の内容については、防災知識、防災意識を高め、防災実践力を身につけるため、校区の自

然災害リスクを把握し、避難経路の確認・危険個所のチェック等を行い、諸機関と繋がり避難所運営等の学びを深め、率先避難者をめざして地域避難訓練等で地域の方々と繋がりを深め、総合的な学習の時間で計画的な取組を行っている。

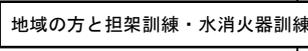
- ② 具体的な取組としては、防災教育を基軸とした総合的な学習の時間の全体計画を策定し、3年間を見通した年間指導計画を作成した。防災教育実行委員会を創設し、防災教育実践委員会において、大学・行政・区長・警察・消防との連携・協働を図った。総合（防災）と教科・領域とのクロスカリキュラムを目指した。
- ③ 地域との協働や専門知の活用を図るため、防災学習での講師・ゲストティーチャーとして地域自治会、佐伯市防災士会の方を招聘した。防災教育への指導・助言、フィールドワークに向けた助言を大分大学減災・復興デザイン教育センター（CERD）から、災害図上演習（DIG）での指導・助言を国土交通省佐伯河川事務所や佐伯市防災危機管理課からいただいた。生徒が自治的運営を目指した避難所運営体験については、佐伯市社会福祉協議会からの指導・助言をいただいた。
- ④ 自然災害リスクの把握のため、国土地理院「重ねるハザードマップ」の地理情報システム（GIS）を活用した。GIS情報と佐伯市のハザードマップとをクロスし、3D表示による高低差を含めた緊急避難地、避難経路、避難所の検討を行った。

3 具体的な取組

実施時期	佐伯市教育委員会の取組	拠点校(佐伯南中)の取組	モデル地域内共通の取組
4月	防災教育コーディネーターの確認	防災教育コーディネーターの決定	防災教育コーディネーターの決定
5月		<ul style="list-style-type: none"> ・2年「県先哲史料館来校指導」(5/23) ・避難訓練事前学習(5/24) ・南中校区CS会議、防災・安全作業部会(5/31) 	 <p>先哲史料館から地震・津波の歴史を学ぶ</p>
6月	<p>津波を想定した災害図上演習(DIG)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回避難訓練(6/3) ・2年「国土交通省佐伯河川国道事務所、防災危機管理課、県土木事務所、佐伯教育事務所来校指導」(6/27) ・2年「国交省とのコラボ学習事後学習」(6/28) 	 <p>NHK大分放送局の取材に応じ、感想を述べる生徒たち「すぐリアルにイメージを持つことができた」「避難場所の確認することも大切だと思った」</p>
7月	<p>県推進委員会への参加(県の取組の方向性の確認)</p> <p>第1回実践委員会の開催(取組の方向性や実施内容、中核教員の役割の確認)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表団及び2年全員による事前学習①(7/1) ・1年防災教育講話(7/5) ・第1回実践委員会への参加(7/11)(取組の方向性や実施内容、中核教員の役割の確認) ・3年防災学習「タイムスケジュール発表会」(7/12) 	 <p>図書館司書補の防災特設コーナーで、防災関連図書を手にする生徒</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・代表団及び2年全員による事前学習② (7/20) 	
<p>8月</p>	<p>被災地・先進的実践校の視察（推進体制が構築されている地域や学校の視察の支援）</p>  <p>津波の高さを体感する生徒</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表団事前学習③ (8/4) ・生徒・中核教員による被災地・先進的実践校「宮城県仙台市・多賀城市、多賀城高校」の視察 (8/8~8/10)（推進体制が構築されている地域や学校の視察）  <p>語り部タクシーの方から被災状況を聞く</p>	 <p>多賀城高校の生徒から、都市型津波の特徴や、訓練や家族との会話の大切さを学ぶ</p>
<p>8月</p>	 <p>還流報告に聞き入る2年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修への中核教員の参加 (8/23)（被災地・先進的実践校視察の結果の共有等） 研修内容を各学校の校内研修において教職員に伝達 ・代表団事後学習 (8/24) ・学年還流報告会リハ (8/29) ・2学年還流報告会・学年修旅防災事前班学習① (8/30) ・1年調べ学習の確認 (8/30) <p>学年の仲間に還流報告する代表団</p>	<p>教職員研修への中核教員の参加（被災地・先進的実践校視察の結果の共有）研修内容を各学校の校内研修において教職員に伝達</p> 
		<p>防災デイキャンプ（コロナの影響により不開催）※後日1学年が防災体験学習を実施</p>	
<p>9月</p>	 <p>重ねるハザードマップ(3D表示)を活用しての修学旅行防災事前学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年修旅防災事前班学習② (9/1) ・学年修旅防災事前班学習③ (9/2) ・1年防災学習まとめ (9/6, 9, 12, 13) ・1年防災学習発表練習 (9/15) ・2年、防災学習の視点をもった修学旅行 (9/9~9/10)（居住地と訪問地の比較） ・学年修旅防災事後班学習① (9/13) ・3年「佐伯市のこれから」ガイダンス (9/14) ・学年修旅防災事前班学習② (9/14) ・3年「困難に備えておくべきこと」 (9/16, 20, 27) ・学年修旅防災事前班学習③ (9/16) ・2年、地域協働班学習① (9/26) ・2年、地域協働班学習② (9/29) 	<p>居住地（灘）とうみたまごを比較</p>   <p>GISで災害リスクを可視化する</p> <p>学校防災出前講座（佐伯城南中・避難所開設演習）</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・1年、避難所生活体験（9/29） 	
10月	 <p>自分たちの企画で打ち合わせる代表団</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表団企画による避難所運営体験学習打ち合わせ（10/3）佐伯市社会福祉協議会と協働 ・1年、防災学習クラス発表（10/3） ・2年、地域協働班学習③（10/5） 	
	<p>第2回実践委員会の開催（取組の中間報告検討・被災地・防災教育先進地研修報告）</p>	<p>第2回実践委員会への参加（10/14）（取組の中間報告検討）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協働班学習④（10/14） 	
	 <p>鶴成 CERC センター長から居住地 FW のアドバイスを頂く</p>  <p>FW で避難地の高低差を確認</p>  <p>FW で備蓄倉庫を確認</p>	<p>教職員研修、学校安全アドバイザー招聘日程調整不能のため、大分大学防災・減災復興デザイン教育センター（CERC）センター長・鶴成悦久教授を招聘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年、学年集会で代表班発表（10/18） ・2年、地域 FW 事前学習、鶴成センター長指導・助言（10/18） ・2年、地域 FW 学習（10/20） ・2年、避難所運営体験（10/21） ・2年、地域協働班学習④（10/27） ・代表団リハ①（10/31）  <p>代表団が停電を設定し想定外をマネジメント</p>  <p>ミッション設定から振り返りまで自治的活動</p>	<p>県学校安全・安心支援課の出前講座を活用した研修</p>  <p>率先行動：軽トラから物資を搬入</p>  <p>率先行動：段ボールベッドの組み立て</p>
	<p>学校安全（防災）研修会への参加・依頼</p>	<p>学校安全（防災）研修会への参加</p>	<p>学校安全（防災）研修会への参加</p>
11月	 <p>還流報告をプレゼン</p>  <p>思いを伝える代表団</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年、地域協働班学習⑥（11/1） ・代表団リハ②（11/2） ・文化祭（11/3）にて代表団還流報告発表及び修旅防災学習班・地域協働学習班の展示 ・2年、地域協働班学習⑦（11/8） ・担当地区生徒前日学習（11/11） 	 <p>3年生展示：持続可能なふるさとの創造</p>

	<p>地域合同避難訓練への参加よびかけ</p>  <p>上久部地区備蓄倉庫の確認、集合する生徒</p>	<p>地域合同避難訓練への参加 (11/13)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協働班学習⑧ (11/15) ・代表団&地域協働班リハ (11/18)  <p>地域の方と担架訓練・水消火器訓練</p>	<p>地域合同避難訓練への参加</p> 
	<p>拠点校の実践に対する指導助言</p>  <p>区長や仲間と思いを共有</p>	<p>公開研究発表会の開催 (11/22) (研究発表・公開授業の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表団還流報告プレゼン発表 ・地域協働班相互セッション授業 ・各区長会長との協働  <p>有事に向け、平時からの協働を図る</p>	<p>公開研究発表会への参加 各学校において公開授業の内容の伝達及び公開授業を参考に安全に関する授業の実施と取組の検証</p>
12月		<p>教職員研修 (今年の防災教育の取組の振り返り・総括、今後の方向性の確認)</p>	
1月	<p>学校安全基礎講座の開催 第3回実践委員会開催</p>	<p>第3回実践委員会への参加 (1/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組振り返り、今後の方向性 	<p>学校安全基礎講座への参加 拠点校の取組の情報共有</p>
2月	<p>教職員研修での指導・助言 (取組の検証)</p>	<p>教職員研修 (取組の検証) 次年度の危機管理マニュアルの見直しと改善</p>	<p>次年度の危機管理マニュアルの見直しと改善</p>

4 取組における成果と課題

(1) 成果

① 防災知識について

- 講師招聘や体験学習により、南海トラフ地震・津波についての知識が向上した。
- GISを活用した調べ学習、災害図上演習(DIG)やフィールドワークにより、自宅周辺や通学路の危険箇所を把握できた。
- 避難訓練等の実践を通じ、在校時の地震避難行動について向上した。
- ハザードマップやGISを活用し、登下校時の地震避難行動について改善した。

◎上記から、生徒は防災知識を身につけ、いざという有事の際に役立つ判断材料としての正しい情報を、生徒は多く得ることができた。

② 防災意識について

- 各学年の取組により、多くの項目で防災行動の数値が向上した。
- 佐伯市地域避難訓練への全校参加を推進し、全校で78.0%の参加率となった。
- 防災先進地視察の代表団の還流を通じ、該当学年を始め全校生徒の意識の向上に繋がった。
- 大学など専門諸機関と連携することにより、各取組の基盤としての意識が向上した。

◎上記から、生徒の防災意識が高まり、有事の避難や避難訓練、今後の防災学習に対するレディネスを高めることができた。

③ 防災実践力について

- 「中学生としてできること」の学びを継続することによって、誘導・声かけの行動力（2年）が向上した。
- 避難所生活体験など実践的な学習により、防災行動（非常持ち出し袋、家具固定、備蓄、身元カード準備の防災行動）について向上（1年）が見られた。
- 佐伯市地域避難訓練で、地域の方々と防災訓練（三角巾体験・水消火器訓練・担架作成訓練等）において協働する姿が見られた。
- 行動力を重んじた学習により、台風14号における生徒の実際の行動（シャッターの開け閉め、浸水を防ぐための物の移動、家族の手伝い等）に表れた。

◎上記から、生徒の防災実践力が高まり、実際の有事の際、また有事に向けて、率先避難者の行動として、自助・共助に向け協働できた。

3年間を見通した教育課程を見直し、**防災教育を基軸としたカリキュラムを編成**した。再編した教育課程をもとに、各学年により、様々な防災・減災学習の取組が行われてきた。その取組により、**防災知識、防災意識、防災実践力について、各学年とも共通して複数の項目で伸び**を示した。各教科間でのクロスカリキュラムを企図し、単元配列表も作成した。防災・減災教育の視点、持続可能な社会の実現に向けた視点を、いくつかの教科・領域で実践できた。

地域と共にある学校づくりの視点を重んじた。「防災教育実践委員会」での地域及び諸機関との連携・協働は、大いに活かすことができた。地域の方々の思い・願いを聞いたことで、その地域に住み、支えられ、生かされているとの思いから、「**地域に役立ちたい**」「**何かできることをしたい**」といった生徒の思いに繋がっていった。**台風14号が襲来した際、「家でシャッターの開け閉めを手伝った」「避難所で、窓の補強や土運びを手伝った」**などといった、**生徒による直接の行動**に現れた。**防災実践力の具現化**された姿である。

数人の参加に限られていた**佐伯市地域避難訓練への参加**を全校に呼びかけ、**全校の取組として参画**を推進し、**約8割の生徒が参加**した。合同訓練が実施された地区では避難行動や消火器運用訓練に参加、実施されない地区についても、ワークシートを活用し、居住地区の自然災害リスク、避難経路の改善点などを模索した。地域の方々と、**地域の一員として訓練に参加**し、担架や消火器を握る生徒たちの様子は、大いに変容した姿である。これまでほぼゼロであった繋がりの糸口は見いだせた。

（2）課題

●防災知識について

・進級後も、学年に応じた防災に関する防災に関する学習を継続すること。⇒計画的に防災講話等を継続して開催する。

●防災意識について

・継続して防災学習に取り組んだり、地域避難訓練に参加したりする意識を保つこと。⇒今後とも、体験的学習を計画的に仕組んでいく。

●防災実践力について

・有事の実際の行動について、生徒一人ひとりが取り組めるようになること。⇒地域避難訓練等の場で、行動力（有事の際役立つ力）を発揮していく。

今年度の取組を振り返り、以下5点を学校全体の課題として捉えた。

- ① さらに効果的な組織改革（防災教育実行委員会、PTリーダー会議の有効活用）
- ② 教科や領域をまたぐカリキュラムの推進（単元配列表の活用・推進、多数教科での実現）
- ③ 実際の有事の場面での意思決定モデルの実用化と検証
- ④ 地域・家庭との更なる連携と協働
- ⑤ 率先避難者の行動指針と、とるべき行動の再確認

（3）今後の見通し

これまでの成果を踏まえ、上記の課題①～⑤を1つ1つ克服していくことを今後の取組の指針とした。さらに家庭・地域と繋がることで、本校及び本校校区、そして佐伯地域のリスク軽減・防災・減災に向け、さらなる実践・取組を推進していきたい。ただ、まだまだ地域との連携は始まったばかりである。有事の際、実際に協働し、実働できるかどうかは、これからの繋がりにかかっている。地区行事に積極的に参加し、日頃から繋がり、お互いの顔が見える付き合いとなること。それにより、いざという時、支え合い、共助できる仲間となれるはずである。具体的直近の取組の見通しを以下に示す。

- ・ 第3回実践委員会への参加⇒今後の地域協働・連携の方向性を模索
- ・ 校内研修（取組の検証、次年度に向けたカリキュラム・マネジメント、危機管理マニュアルの見直しと改善）（2月、3月）